

Nyonyum 7号

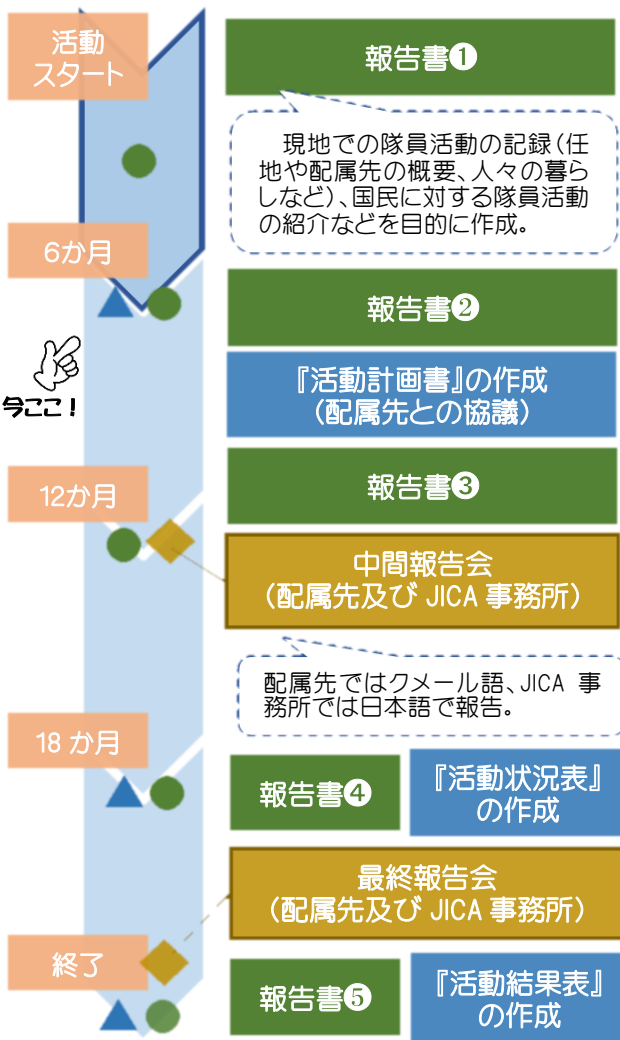
By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



協力隊活動は6か月が経過～今後の「活動計画」について配属先と協議

任地スバイリエン高校での協力隊活動は、6か月が経過。10月中旬、配属先の校長・副校長、カウンターパート（現地の体育教員）、そして、JICA スタッフを交えて、これまでの活動を振り返ると共に、今後の活動の具体的な方向性について協議を行いました。今後は、配属先からの要請（レポート第4号で紹介）に加えて、半年間の活動で新たに増えてきた課題に対し、自身で立てた「活動目標」や「活動計画」に基づき、より具体的に活動を進めていくことになります。

【協力隊活動2年間の流れ】 ～節目節目で、活動を振り返り JICA カンボジア事務所へ報告を行います。



「どんな生活、活動が始まるのだろうか」と、期待と不安が交錯しながらの打合せ。全然伝わらなかったクメール語での自己紹介…今となっては、懐かしの光景。



JICA スタッフの力を借りながらも、クメール語で、今後の『活動計画』についての説明。先生方との関係性も構築され、半年前とは異なり、少し余裕が。「配属先に加えて、近隣で困っている学校があれば、授業サポートをしていきたい」という想いを伝えました。

『活動計画書』とは、活動目標と活動のスケジュールを明確にし、活動を計画的に進めることができるように作成するもの。
配属先が望むことと隊員の実施したいこと、できることを調整しながら、日本語と現地語の両方で作成。

JICA スタッフ紹介

私たち協力隊員の活動は、多くの方々のサポートで成り立っています。

ボランティア調整員 浅井浩史さん

配属先との協議、資料作成のアドバイス、活動に伴う事務的な手続き、時には活動上の悩み相談に乗って頂いたり、隊員が一番近いところで、サポートをしています。
浅井さんご自身も、島国サモアで、体育の職種で、協力隊員を経験。その後、高校の教員を経て、現在のお仕事をされています。



現地スタッフ ピーロンさん

学生時代に、カンボジアの奨学制度を利用し、千葉大学に留学。6年間、日本に滞在。英語、日本語を使いこなし、配属先との打合せの際には、通訳をしています。





日本からの初来訪!!友人が、任地スバイリエンに!

8月中旬、新潟県で教員(現在、教職大学院に在籍)をしている友人・増田有貴さんが、スタディツアーでカンボジアへ、そして、任地スバイリエンにも足を運んでくれました。首都プノンペンや世界遺産・アンコールワットを訪れる日本人はたくさんいますが、観光地ではないこのまちに、わざわざ足を運んでくれなんて...この上ない喜びでした!!!せっかくの来訪、観光地にはない「カンボジアのローカルな暮らし」をたっぷり堪能して頂きました。

増田さんの滞在記を増田さんのお気に入りの写真と生の声でお届けします。

1日目 (PM)

大家さん家族との ウェルカムパーティー



2日目 (AM)

片道 40 分のサイクリングをしながら、田園風景が美しいバッサク村へ。 村の子どもたちと「パブリカ」ダンスで交流。



次の日、増田さんは、筋肉痛に👉



【解説】高木さんのホームステイ先のカフェで働くナナさんは、休日に村の子どもたち(2~11歳)にダンスや英会話を教えています。ちょうど滞在日にダンスがあり、日本の子どもたちに人気の「パブリカダンス」を教える機会を頂きました。私の英語での説明をナナさんにクメール語で通訳してもらいながら、練習すること30分。サビの「パッ」と花が咲くところでは、どの子も思い思いに“flower”を表現し、とっても可愛く踊ってくれました!ダンスや歌を通じて、子どもたちに日本の文化を楽しんでもらうことができました。村の子どもたちのために、忙しい中でも献身的に教育活動を続けるナナさんの責任感に感銘を受け、帰国後すぐに英語の絵本と教材を送りました。子どもたちが楽しんで英語学習ができるきっかけになるといいな、と思っています。

2日目 (PM)

国境沿いのまち ババットにて夕食

市内散策

大家さんの親戚の家など、あちこち連れ回しました👉

3日目 (AM)

「もう一人日本人が来た!」と増田さんに興味津々!

スバイリエン高校にて、朝食、敷地内散策、 体育の授業「ポッカタオ」(中学1年)の見学&生徒たちとの交流



【解説】念願の他国の学校訪問&協力隊員の活動見学。見学した授業はカンボジアの伝統武道「ポッカタオ」。前半、全体で基本の構えと技の型を練習する中、高木さんは生徒一人一人に丁寧に指導や助言をして回ります。後半は、実践練習。生徒と先生で模範を見せた後、ペアで前半に学習した技を出し合ったのですが、これが大盛り上がり!みんな夢中になってやっていました。中には、高木さんに挑み続ける女子生徒も。明解な指示と抜群の授業テンポ、スモールステップの授業構成が、生徒の意欲を引き出し持続させていたように思います。彼らの活き活きと楽しそうな表情を見て、私も参加したいくらいでした。高木さんと生徒たちのやりとりを見ると、生徒たちは高木さんのことが大好きで、彼らから信頼を得ているからこそ、あのような雰囲気での授業になるのだと思いました。後日、カンボジア人の友人に授業の写真を見せたところ、「カンボジア人でも難しいポッカタオを日本人が教えたの?」と驚いていました。学校の設備や教育内容、使用言語等あらゆる環境が日本と異なるカンボジアで、子どもたちの目の輝きを引き出す高木さんはやはり教育のプロだと思うと同時に、高木さんの指導方法は間違いなく他の先生方の学びになっていると思いました。もちろんその裏には計り知れない苦労があると思いますが、高木さんの現地の人たちとの関わりを大切にし、真摯に活動に向かう姿に、私自身が大きな刺激を受けました。

スバイリエンを訪れて(感想)

「観光旅行ではできない経験がしたい」と計画した今回のカンボジア渡航。

家庭料理や屋台料理の堪能、学校見学、地域の集会への参加、まちの散策、地域の人々や子どもたちとの交流等、スバイリエンで多くのローカルな体験ができ、とても充実した3日間となりました。滞在中に出会った方々は皆さんとても優しく感じたのですが、特に高木さんのホームステイ先の大家さんご家族からは本当の家族のように良くしていただいて、別れが惜しかったほど。「また訪れたい」と思うくらい、活気があって温かな街でした。

今回の旅でお世話になった皆様に心から感謝です。本当にありがとうございました!

とてもとても身に余るお言葉も頂きながら、2泊3日の旅の行程をレポートしていただきました。増田さん、ありがとうございました!!是非、皆さん、田舎ならではの「ぬくもり」が感じられるカンボジア・スバイリエンに遊びに来てください!